

生殖促す脳内ペプチド

東大チーム、メダカで発見

東京大学の岡良隆教授らの研究チームは八日、メダカを使った実験から脊椎（せきつい）動物に

メダカなど生殖腺を刺激するホルモンの放出を促すペプチド「GnRH」を作る神経細胞を調べた。この神経細胞の活動を調整するペプチド「キスペプチン」を作る神経細胞を見つけた。キスペプチンによってGnRHの産生が促され、生殖腺が刺激されるという。キスペプチンは脳下部の一部で大量に

メダカなどを使い、ほかの神経細胞を刺激するメカニズムを調べる。同様の仕組みがメダカだけで

環境条件を調節して毎日産卵するメダカでは量が多くなることを確認した。また、キスペプチンは脳内のほかの神経細胞にも影響している可能性があることも分かった。脳の中だけで働いていることから、性行動の動機付けと関係している可能性があるという。今後は遺伝子操作した

メダカなどを使い、ほかなく脊椎動物には残っているとみており、生殖と環境変化との関係を解き明かす手がかりにする。